

ベターエイジングが理念

美容科開設

美容科は、市中の美容外科クリニックがうたう「アンチエイジング(抗老化)」ではなく、「ベターエイジング、ベターライフ」今日よりも明日の自分をもっと好きになる」をキーワードに掲げる。

2年前、美容点滴を始めたところ、外見の改善に伴い患者の表情が明るくなっていくことから、幅広い年代の心の健康をサポートしようと開設に踏み切った。

施術は、医療レーザー脱毛▽医療レーザー美顔▽シミを取るピコレーザー▽いぼ・ほくろを取る炭酸ガスレーザー▽しわやエラ張りなどを改善するボツリヌス毒素注射▽しわやたるみを治すヒアルロン酸注射▽頬のたるみを矯正する糸リフト▽コラーゲン生成を促すピーリングなど。施術前には肌診断機を用いて肌の状態を分析し、一人一人に合わせた最適な治療を提案する。

昨年9月から12月までの4カ月間で延べ1930人が治療に訪れた。年代別では40、50代が約6割を占めるが、10代から90代まで幅広い年代が訪れている。男性も7%を占める。美容に関する施術は全て自由診療で、各医療機関が金額を決めている。

技術、費用とも安心を

センターは開設に当たり、県内外の美容クリニックの料金を調べ、全てのメニューについて誰もが利用しやすい適正な料金に設定した。田中祥裕常務理事・経営本部長は「地域に根ざす病院が併設しているので、技術面、費用面とも安心して治療を受けてほしい」と話す。

治療を担う山下智也・美容科医長は産婦人科医として香川大学病院周産期女性診療科に勤務した後、美容外科に転身。大手クリニックなどで修練を積んだ。

山下医師は「治療に当たっては複数の選択肢を提示し、予算や希望に応じて無理のない範囲で選べるよう配慮している」とし、「美容に関心はあるものの一般的なクリニックを受診することに抵抗を感じている人も安心して通院できる環境づくりを心がけている」と言う。患者が希望すれば一度に大きな変化を求めるのではなく、段階的に気になる部分を改善することもある。

センターは美容科開設に伴い、無料の「女性ウェルネス外来」も毎週土曜に開いている。美容点滴を引き続き担当する西江寛裕医師(96)が、心身や美容に関する悩みや不安を聞き助言をしている。



患者の希望を聞き、複数の選択肢を提示して行う施術



清潔感あふれる美容科の受付



山下医師